

# 草津市総合計画策定プロジェクトチーム会議

(リーディングプロジェクト研究チーム 第2回)

日時：平成21年5月8日(金)

18時から

場所：601会議室

1 開会

2 議事

リーディングプロジェクトの研究について

3 閉会

資料

資料1: リーディング・プロジェクトの研究②

## リーディング・プロジェクトの研究②

### 【前回の会議のおさらい】

- ・ 前回会議では、市民会議等の結果を踏まえた、「くさつ感動交差点プロジェクト（文化高揚）」「快遊生活タウンプロジェクト（移動性向上）」「近隣 SAFE プロジェクト（地域コミュニティ強化）」の 3 つの仮説について検証しました。
- ・ 検証にあたっては、各委員から「10 年後に目指すまちの姿」についての「思い」を語っていただくことを通じて、これらの基本的な考え方についての妥当性を確認したところです。
- ・ すなわち、第 5 次総合計画に盛り込むべき「リーディング・プロジェクト」として次の 3 つの方向性のもとで検討を深めることとなったところです。
  - 「中心市街地の活性化から、まち全体の魅力アップへ」
  - 「市内の円滑移動の確保と地域生活の保障」
  - 「さまざまなライフステージの人が安心して暮らせるまちづくり」

### 【次の会議の取り組み】

#### テーマごとの検討\_1

- 「中心市街地の活性化から、まち全体の魅力アップへ」に関して、プロジェクトを組み立てます。

※ 「市内の円滑移動の確保と地域生活の保障」「さまざまなライフステージの人が安心して暮らせるまちづくり」については、後日の検討とします。

#### **STEP1** 10 年後のまちの状態像（ゴール）として、具体的なビジョンを描く

- ・ 前回の付せんを起点に、具体的なゴールのイメージを深めて共有します。

#### （ビジョンを描くポイント）

- ・ 10 年後の「中心市街地」のようすは？
- ・ 「中心市街地」が「まち全体の魅力」にどのように影響している？
- ・ 市民が共有できるイメージは？
- ・ シビック・プライドに結びつく要素は？

## STEP2 ゴールに至るために行なうべきこと、施策・事業を提案する

- ・ 前回の付せんを起点に、具体的な取り組みイメージを深めて共有します。
- ・ 基本方向、施策、事業など、取り組みのレベルは問いません。
- ・ 「必要性」「重要性」の観点からの取り組みのリアリティを重視します（財源など実現を阻害する要因にあまり留意しないで）
- ・ シビック・プライドの醸成に係る提案を含めてください。

## STEP3 「事業計画」を考える（ロードマップとして）

- ・ 提案内容を基本計画期間に留意して時系列に整理し、各基本計画期間の達成目標（マイルストーン）を考えます。
- ・ あらためて全体を振り返り、施策・事業体系を再構成します（整理統合、充実 等）
- ・ プロジェクト推進のポイントや推進におけるハードルについて確認します。

## STEP4 主体別の行動計画を考える（積み残す）

- ・ 市民、行政、その他が主体別に行うべきことについて検討します。

## STEP5 財政計画・進行中の計画等に配慮して、プロジェクトを充実させる（積み残す）

- ・ 進行中の計画等を確認し、必要な調整を行います。
- ・ 事業費見込みを粗計算し、財政計画との整合を図ります。

### 【参考】横浜市の場合のリーディング・プロジェクトの設定

#### ■リーディング・プロジェクト名の設定

「横浜型環境行動推進プロジェクト

～市民一人ひとりの知恵と行動により地球環境を守り・創る環境行動都市を目指して～」

#### ■目標達成の状態像の記載表現

- ・ 市民一人ひとりや事業者が省エネルギー行動や環境負荷を少なくするライフスタイルをおくり、地球温暖化等の防止に取り組んでいます。
- ・ 市内における緑の総量が増え、潤いのある生活空間を生み出しています。

#### ■主なプロジェクト事業の設定

- ・ 150万本植樹等の緑化の推進
- ・ 緑の保全、創造に向けた新たな制度等の活用・検討
- ・ さらなるごみ減量リサイクルに挑戦 など

横浜市では、事業レベルでプロジェクトを組んでいます。草津市では、今後の検討・調整を踏まえて、プロジェクトの設計を決めていきます。

## (メモ) 前回 GW での意見

### [10年後の草津の姿として望むものについて]

- ・ 住みたいまち草津、まちなかがにぎわう草津、観光都市草津となっているとよい。そのために、中心市街地の活性化が必要。
- ・ 高齢者が楽しめるまち。各学区で福祉バスをもつ。
- ・ 住んでいて楽しいまち。
- ・ 草津をみんなに好きになってもらう。
- ・ 駅前再整備が必要。通過する人にとって心地の良い場所にする。例えば、デッキのリニューアル、拡幅など。東口における草津での滞留時間を少しでも長くする。西口は再開発を行なう。
- ・ 旧草津川、旧市営団地の跡地利用
- ・ バスの運営。既得権との関係があるが、中心と地方部を結ぶ路線を作る。LRT は初期投資が膨大であるが、BRT であれば LRT の 1/3 のコスト。
- ・ 駅前を他都市と差別化をはかる。守山の駅前はすっきりしている。草津駅前はごちゃごちゃ。
- ・ 景観を大切に作る。作っていくエリアと残していくエリア。
- ・ 情報ハブステーション、知恵のあるまち、何でもいいので一番のあるまち、文化のあるまち、研究者のつどうまち
- ・ 半径 2km 以内で生活のできるまち。
- ・ 10 年〜20 年後に駅前がゴースト化するおそれがある。今のまちの姿を維持する施策が必要。使い捨てのまちにしない、ふるさと意識の醸成。
- ・ 駅前の高度利用、にぎわいは他の都市にはない。
- ・ 琵琶湖を通過するだけでなく、憩いの場として活用。
- ・ 洗練されたまち。
- ・ 子どもを持つ世代が集まるまち。(子育てに関する施策の充実だけでなく、子どもの教育、習い事、遊び場なども充実)
- ・ 安心して過ごせるまち。軽犯罪が多いのは、本人のモラルが問題であり、モラル向上が必要。計画にある「こころざし」「自負」は共感できる。
- ・ 出生率一番のまち。
- ・ 水辺の景観が美しい(自然と調和)
- ・ 駅前の活性化(文化と調和)
- ・ 車に頼ることなく生活できるまち
- ・ 旧草津川の活用。(邪魔者から魅力へ) 緑地帯にする。桜だけでなく、四季を通じて楽しめる。桜並木は 5.5km もあり、有力な資源である。
- ・ 自慢できるものをつくる。
- ・ 地域コミュニティ(自治会)の格差。数十人〜数百人規模。
- ・ 大学があるが「大学のまち」という雰囲気がない。
- ・ 2010 年から、BKC において、学生が地域に入って行うサービスラーニングの取り組みが始まる。うまく、活用できないか。
- ・ 今あるものを活かす。
- ・ ワンランクアップのまちづくり。
- ・ 「利便性」だけでなく、住みたいにつながる「住まい方」を示すことができるまちへ。